

4月7日(土)

とうかいまるごと博物館事業

「石神城さくらまつり」を開催!

「石神城跡」が、実は隠れた桜のお花見スポットであることをご存じですか。4月1日(日)～15日(日)を「石神城お花見ウィーク2018」と称し、7日(土)に「石神城さくらまつり」を開催します。

石神城探検、草木染め体験、クイズラリーなど、親子で楽しめるさまざまなメニューを用意しているほか、甘酒の無料配布やキッズコーナーもあります。

石神城が存在した戦国時代に思いをはせながら、ぜひ

お花見を楽しんでみませんか。

期日▼4月7日(土)

時間▼午前10時～午後3時

場所▼石神城址公園

問い合わせ▼生涯学習課文化財・芸術文化担当(☎282-1711 内線1423) ※詳細は、村公式ホームページ(<http://www.vill.tokai.ibaraki.jp>)をご覧ください。

ふるさと歴訪
— 歴史を再発見 —

「冥界のお婆さん」のお話

「しよろろくばあ」。この何ともいえない響きの言葉が、如意輪寺に伝わる一体の座像を浮かび上がらせます。それは、「奪衣婆」。経典「地藏十王経」に登場する冥界の裁判官十王とその付属の奪衣婆、本来は端役に過ぎない奪衣婆に、今回スポットを当ててみたいと思います。

私たちは縁あってこの世に生まれ、やがてこの世の命が終わると、冥界の旅人となつてあの世へ旅をすることを知られてきました。その旅の途中で出会うのが、奪衣婆という怖い顔をしたお婆さんです。

冥界へは山あり、川ありの長い旅です。

川の名は三途の川、そのほとりに、「衣領樹」という一本の木が立っており、その下でお婆さんが旅人を待っています。このお婆さんの役目は旅人の衣服を剥ぎ取ることで、そのため奪衣婆と呼ばれています。

冒頭の「しよろろく」とは「衣服」が変化した言葉と思われるま



如意輪寺の「奪衣婆」像

すが、奪衣婆は剥ぎ取った衣服を傍らの衣領樹に掛けます。実はこの木は特殊な木で、旅人の生前の罪の重さを量ることができ、衣服を枝に掛けると罪の重さによつて枝のしなり具合が違ってくる仕組みとなっています。この結果が十王が司る裁判の証拠物件となり、あの世の生まれ変わり先が決まるといわれます。このように旅人にとっては怖い存在である奪衣婆も江戸中期以降には民間信仰の対象として、人々に親しまれるようになりました。

如意輪寺の奪衣婆像はヒノキ材造りで彩色が施され、裏に「享保十六(一七三二)年四月、塗師文六」の銘が書かれており、制作年代が特定できる上で貴重なものと言えましょう。

安永年間(1772～1780年)に入り如意輪寺は火災に遭い、本堂を始め灰燼に帰しましたが、奪衣婆像は十王像と共に難を逃れました。現在は東海村の有形文化財に指定され、今の私たちに当時の人々の信仰と苦勞をしのばせてくれます。

如意輪寺 中興第四十世住職

小畑 賢祐